

平成30年度 学校だより (第15号)

木立見 こだちみ

校訓 ～ 強く 正しく 美しく ～



平成30年12月25日発行

発行者 出口 伸雄

足利市立西中学校 62-2230

平成30年度学校課題：自他を尊重し、互いに高め合う生徒の育成（3年目）

本日、2学期の終業式を迎えました。明日からの冬休みは、家族で過ごす時間を大切に、新年の目標を立てさせ、日頃できないお手伝いや読書をさせるようにお願いします。また、学習、生活、人間関係、進路・受験などで、心配なことや悩んでいることがありましたら、遠慮なく担任等にご連絡ください。



保護者の皆様には、大変お世話になりました。良いお年をお迎えください。

人権講演会～『知ってください！がんのこと』

世界人権週間（12月4日～10日）にちなみ、各学級でいじめ撲滅のための振り返りと対策を考え、道徳の授業などでは人権に関する学習を行いました。また、12月7日（金）、がん経験者「磯 由香さん」を講師にお迎えし、約50名の保護者等も参加して、人権啓発研修会（人権講演会）を行いました。



磯さんからは、次のような貴重なお話をいただきました。「がん」が発見され、生きるために迷いもなく勇気をもって治療に励み、「がん」を根治（完全に治療すること）することができた。2人に1人が「がん」に罹る社会において、「がん」を正しく知り、家族に検診の大切さを伝えたり、「がん」への偏見をなくすことが大切である。「がん」に罹ったことで、違った見方や前向きに考えること、家族の健康を喜びに感じることもできた。人は一人で生きられない、みんなで支え合って生きている、人への感謝の気持ちの大切さを実感することができた。

以下は、生徒の感想です。

- 早く「がん」が見つかって本当に良かったです。健康な生活をしていても、「がん」に罹ることがあり、「がん」は身近な病気なんだと思った。私も悲しいとき、人が寄り添ってくれると安心するので、『子どもたちや夫や友人のお陰で「がん」の治療に立ち向かうことができた』というところがうなずけました。
- 「がん」について正しく知ることができ、「がん患者」を変な目で見たり、「がん」＝「死」ではないことがわかった。私が「がん」に罹っても未来があることを思ってくれる人がいてくれれば良いなと思った。「がん患者」だった「磯さん」のとっても元気な姿を見て、「がん」について前向きに考えられることができ、非常にためになるお話だった。
- 一番心に残ったことは、「がん」に罹ったことを人に話すことは複雑な気持ちだと言うことだ。恥ずかしい気持ち、友人や家族に気を遣わせたくない気持ち、嫌な気持ちなどいろいろな感情が入り交じっているため話しづらくなるのだとわかった。もしも身近に「がん」に罹っている人がいたら励まし、いつも通りに接したいと思った。自分や両親の健康診断のことも検討し、一度家で話し合ってみたいと思った。
- 私が幼かった頃、私の母は「がん」に罹りしばらく入院していた。母も「磯さん」と同様、早期に発見し根治することができた。その当時、私は「がん」は死ぬ病気だから母はラッキーだと思っていたが、今回のお話で、早期発見の大切さを知ることができた。

一人が一校(西中)を代表する～西中生の素晴らしい姿～

- ◇道路の交差点にあるカーブミラーが割れているのを発見し、学校に連絡してくれました。（学校から足利警察署に連絡し、直していただきました。工事車両による破損でした。）
- ◇校舎内の劣化による破損箇所を発見し、すぐに知らせてくれました。

税金の大切さを学ぶ～3年生租税教室と税の作文～

12月5日(水)、租税教室を行い、「牧野安浩 税理士さん」からのお話やDVDの視聴により、将来納税者になるために、国民の義務としての納税や税金の意義・役割について学習しました。生徒たちは、発表や質問したりするなど、意欲的に授業に取り組みました。また、毎年、租税教育推進活動の一環として行われている「税についての作文」には、中学3年生139名が出品し、次の生徒たちが入賞しました。

◇栃木県納税貯蓄組合連合会長賞：「とられている税」を「預けている税」に

◇足利納税貯蓄組合連合会長賞：税に関すること

◇足利納税貯蓄組合連合会長賞：私たちがすべきこと

◇足利納税貯蓄組合連合会長賞：税金の大切さ



<「とられている税」を「預けている税」に…3年男子生徒>

今回、税についての作文を書くにあたって、家族と税金について話をする機会をもった。話をする中で父は、「日本で暮らす私たちにとって、税金を納めることは『教育の義務』、『勤労の義務』、と並んで国民の三大義務のひとつになっているから、税金を取られるのは仕方ないのかな」と話していた。また、年金を受給している祖母にも話を聞いたところ、「今受け取っている年金からも住民税と所得税が持っていかれるんだよ」と不満そうに話していた。アルバイトをしている大学生の従妹にも話を聞くと、「アルバイト代からも所得税として取られるんだよ」と話をしてくれた。

父、祖母、従妹の話を聞いて気づいたことがある。それは、私たちは税金を納めることは義務であると理解しつつも、「取られる」、「持っていかれる」という感覚があるのではないかということだ。

そこで、「取られる」、「持っていかれる」という税金に対する私たちの否定的な印象を好転させるためにはどのように考えるのが良いのかを考えてみたいと思う。税金に関する情報をインターネットで調べていく中で、デンマークで暮らす人の税金に対する考えが紹介されていた。そこでデンマークの消費税は日本の3倍以上の25パーセントであることを知った。私はとっさに『そんなにとられているんだ。可哀そうに』と感じた。さらに、デンマークは所得税も高く、年収の約3分の1が税金だと書かれていた。しかし、国際連合の世界幸福度報告書によると、世界で「最も幸せな国」の順位でデンマークは3位となっている。因みに日本は54位であった。さらに言えば、デンマークは2年前は1位であった。



デンマークでは税金がこれほど取られているにも関わらずどうして幸せを感じられるのか、ということに興味が出たので、私は「消費税25パーセントで世界一幸せな国デンマークの暮らし」という書籍を読んでみた。そこで感じたことは、デンマークで暮らす人にとって、税金は「取られる」、「持っていかれる」ものではなく、「預けている」、「税は自分の生活を豊かにするための必需品」と考えていることが分かった。確かに日本で暮らす私を税金によって医療費が低く抑えられていたり、義務教育を受けることができているのだ。

今回の作文を書く中で感じたことは、私自身をもっと税金の使い道について関心を持つことで、「取られている税」が「預けている税」という印象に変わるのではないかということである。そうすることで、私自身の税金に対する納得感も高まると感じた。

楽しい冬休み になるためのお願い

- ◆命を大切に、心身ともに健康な生活が送れるようにする。
- ◆交通ルールをしっかりと守らせ、事故がないようにする。
- ◆アルバイトはしない。(家のお手伝いをさせてください。)
- ◆友だちどうしのパーティーや深夜の外出はしない。
- ◆スマートホン等の使用は、「西中生の約束」を守り、トラブル防止に努める。
- ◆治療勧告を受けている生徒は、完治させる。(特に3年生)



西中生に一声かけ、気になることは担任・学校または警察にご連絡ください。

